

“縦割り行政”に横串を通す「SDGs」を軸にした組織運営(秋田県仙北市)

取組概要

“縦割り行政”に横串を通す「SDGs」を軸にした組織運営

- ・市がめざす将来ビジョンとSDGsの理念が整合性・親和性が高いことから、行政全体でSDGsを推進すべきと判断。市長はじめ各部長等で構成する「SDGs推進本部」を組織。本部の配下には、各部署の選抜メンバーで構成するワーキンググループを組織した。
- ・ H30第1次「SDGs未来都市」選定に応募。全国29自治体の一つに選定された。
- ・ 全部署協働でつくりあげた「市民向けシンポジウム」の開催。17のゴールそれぞれに対応した各部署によるパネル展示。
- ・ 市民に身近な取組や活動と17のゴールを紹介する記事を広報誌に掲載。
- ・ 東北でSDGs未来都市に選定された自治体で「東北SDGs未来都市サミット」を結成。

取組の効果

- ・ 「縦割り」と呼ばれる行政運営だが、SDGsを軸にした取組によって横の連携が強化され、事業の遂行がスムーズになった。
- ・ 複数の部署で連携が必要な事業についても、企画段階から一緒に検討を進めることで、新規提案が増加。
- ・ 世界共通のキーワード「SDGs」によって、これまでにつながりのなかった企業および民間団体との連携が生まれ、市民と行政の距離も近くなった。

創意・工夫した点

- ・ 「SDGs未来都市」選定よりも以前に、市長をはじめとする全庁の推進体制を構築。
- ・ 総合計画、総合戦略の見直しについても、SDGsワーキンググループ委員を中心に検討。
- ・ 市の主要事業とSDGsの17のゴールを紐づけた対応表を作成。
- ・ 共通のゴールをめざす部署で班分けし、グループワークを実施。

他団体へのアドバイス

- ・ 行政の取組すべてがSDGsにつながるという意識が重要。各部署の共通項として様々な事業連携、事業推進に活かすことができます。
- ・ 市民一人ひとりが考え、行動する未来をめざし、まずは身近な取組とSDGsのつながりを理解してもらうことが重要と考えます。
- ・ 企業や大学との連携には「SDGs」が強いキーワードになります。

人口 25,857人 (R2.1.1現在)

担当 地方創生・総合戦略室



SDGs未来都市選定証授与式 (H30)



市民向けSDGsシンポジウム (H30)